

令和4年3月31日

北海道教育委員会教育長 様

北海道紋別高等学校長 花 松 均

次のとおり令和3年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

【重点目標】

学校における働き方改革の推進を図り、教員の働き方を見直し、授業を磨く意識を持って授業改善に取り組むことで、生徒の自己実現を支援し、地域に信頼される魅力ある学校づくりを目指す。

- 1 主体的な学びによる学力の向上と進路実現
- 2 新たな知識、人間性、社会性を育む教育の充実
- 3 地域との協働を通して、地域を担う人材の育成

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教 務	I C Tを活用した授業改善・個別学習並びに家庭学習の推進が概ね図られるとともに、次年度以降の一人一台端末に向けた体制づくりを整備した。また、学力向上に向け、生徒一人一人の学習状況を的確に把握するとともに、小テストや週末課題を継続的に実施し、家庭学習の習慣化を図った。学習評価については、観点別評価を充実・改善するなどして、指導と評価の一体化を一層進めた。	家庭における学習習慣や学習に対する意欲が昨年度と比較して増加しているという回答が約8割であった。普通科ではネット学習を取り入れた教育によって成果を上げ、職業学科では地域と連携した商品開発やI C Tを活用した海外との国際交流などを通して、さらに一層地元のことを考えられる機会を持つ教育活動が行われていた。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」を推進する授業内容の質的転換を図っていく。 ・I C Tを活用した授業改善や個別学習をさらに推進するとともに、家庭学習の定着を図っていく。 	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図るために、挨拶の励行や遅刻・欠席の減少、身だしなみなどの改善・充実を図った。また、A Iを用いた資質・能力の向上を図るアセスメント・ツールを活用し、生徒理解をベースに生徒一人一人の指導や支援の展開を図った。	身だしなみやマナー等、基本的な生活習慣を身に付ける指導が十分に行われているという回答がほぼ大半を占めた。一方、今年度はいじめが認知されたことにより、次年度以降、迅速な対応により、その悪化の防止を図ってほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と生徒相互の信頼を基盤にした開発的・予防的な生徒指導の推進を図っていく。 ・教育相談体制及び支援組織による指導の推進により、いじめの早期解決を図っていく。 ・全教育活動を通じた道徳教育の推進を図っていく。 	
進路指導	進路意識を育て、組織的・系統的な進路指導体制を確立するために、生徒、保護者と担任、学科、進路指導部と連携した進路指導を図った。職業学科においては、コロナ禍の中、高い就職率を達成し、生徒のキャリア発達に応じた指導を行うことができた。	生徒の主体的な進路決定ができるようになってきているという回答が8割を超えた。少子化が進む中、高卒での就職や大学進学後の地元への回帰が地域の大きな課題である。インターンシップのさらなる充実や地元の公務員を目指すなど、地元の定着率を高めるような進路指導を継続してほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の計画的なキャリア教育の構築に努めていく。 ・地域人材を活用した教育活動を展開し、地元への定着率を高めるように努めていく。 	
公表方法	ホームページ上に学校評価報告書を掲載する。 P T A役員会、学校評議員会において、学校評価の結果を説明する。	

3 添付資料

- ・「北海道紋別高等学校 令和3年度 学校評価書」